彼らはアッラーが合法としたものを禁じ、それであなた方もそれを禁じているのではないか？また、彼らはアッラーが禁じたものを合法とし、それであなた方もそれを合法としているのではないか？

アディー・ブン・ハーティム（彼にアッラーのご満悦あれ）は、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が『彼ら（啓典の民）はアッラーを差しおいて、彼らの学者や修道僧たちを、彼らの主としたのだ。また、マルヤムの子マスィーフも（主とした） 。彼らは、唯一の神（アッラー）のみを崇拝することしか、命じられてはいなかったというのに。かれ以外に、（真に）崇拝すべきものなど存在しない。彼らがシルクを犯しているものから（無縁な）、アッラーに称えあれ。』（悔悟章３１）というクルアーンの一節を読むのを聞いた。彼（アディー）は言った：「私は彼に言った：『私たちは彼らを崇拝しているわけではありません。』預言者は言った：『彼らはアッラーが合法としたものを禁じ、それであなた方もそれを禁じているのではないか？また、彼らはアッラーが禁じたものを合法とし、それであなた方
もそれを合法としているのではないか？』私は言った：『はい、そうです。』預言者は言った：『それこそが、彼らを崇拝することなのだ。』」
[真正] [アッ＝ティルミズィーの伝承]

この偉大な教友は、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）がクルアーンのこの一節を読誦した時、その意味に疑問を持った。読誦されたクルアーンは、ユダヤ教徒とキリスト教徒たちが、彼らの学者たちや崇拝行為に専念する者たちを彼らの神とした、というものだった。それらの者たちは、アッラーが定めたものではない教えを彼らに定め、彼らはそれに従っていたのだ。教友アディーは崇拝行為が、サジダ（平伏す形の祈り）のような行為に限定されるものと考えていた。そこで預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は彼に、アッラーとその使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が決めたことに反して、学者や修道僧たちがハラール（合法）なものをハラーム（禁止）とすること、ハラーム（禁止）なものをハラール（合法）とすることに従うのは、彼らへの崇拝行為に相当するのだ、ということを説明した。

http://sunnah.global/hadeeth/ja/show/3384